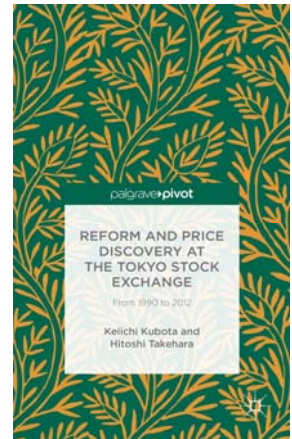


受賞作品

Reform and Price Discovery at the Tokyo Stock Exchange**From 1990 to 2012****(東京証券取引所の改革と価格発見 1990-2012 年)**

久保田敬一・竹原均著

Palgrave Macmillan 128 ページ、67.50US ドル (参考価格)



書評

東証 不断の改革が不可欠

関西大学教授 本多佑三

東京証券取引所の制度的要因の変更は、売値と買値の差額に代表される市場取引の流動性指標や、情報を持つ人と持たない人が市場に混在することによって生ずる市場参加者間の情報の非対称性指標を大きく変動させる。

四半期会計情報の開示ルール導入に関する本書の分析によると、情報開示と流動性指標や情報の非対称性指標との間に双方向の因果性があり、非流動性や情報の非対称性が小さい企業は情報を積極的に開示するグループに、非流動性や情報の非対称性が大きい企業は開示に消極的なグループに集まるといふ。

また、近年に導入された超高速取引システムは、取引数量や1回あたりの取引額に加え、非流動性や情報の非対称性にも大きな影響を与えたと著者は分析している。

本書はマーケット・マイクロストラクチャーと呼ばれる手法を用いて日本の株式市場を統一的に分析した最初の書で、小著ではあるが、分析手法や制度的変遷についても詳しい説明が付され、一般の読者にも分かりやすくまとめられている。

世界の市場間で裁定が働き、非効率な市場は淘汰される今日、その効率性・公正性・透明性を絶えず改善する不断の改革の取り組みが不可欠であることを、私たちに再認識させてくれる書である。